

審議会等の会議結果報告

1. 会議名	第3回松阪市学校規模適正化等に関する検討委員会
2. 開催日時	令和4年1月14日（金）午前10時00分～正午
3. 開催場所	松阪市教育委員会事務局 教育委員会室
4. 出席者氏名	（委員）◎竹内委員、○松本委員、水谷委員、北村委員、竹川委員、鈴木委員、伊達委員、村林委員（◎会長 ○副会長） （事務局）中田教育長、鈴木事務局長、村田事務次長、中西参事兼教育総務課長、大辻参事兼学校支援課長、北畠教育総務課教育政策係長、南教育総務課教育政策係主任、河合教育総務課教育政策係主任
5. 公開及び非公開	公開
6. 傍聴者数	3人
7. 担当	松阪市教育委員会事務局教育総務課 TFL 0598-53-4381 FAX 0598-25-0133 e-mail syom.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

1. 答申までのスケジュールについて
2. アンケート調査結果について
3. 松阪市立小中学校の現状について
4. 学校の小規模化・大規模化に伴う課題について

議事録

別紙

第3回 松阪市学校規模適正化等に関する検討委員会議事録

1. 日 時 令和4年1月14日（金） 午前10時00分～正午
2. 場 所 松阪市殿町1315番地3 松阪市教育委員会事務局 2階 教育委員会室
3. 出席者 委 員：水谷委員、北村委員、竹川委員、竹内委員、鈴木委員、松本委員、伊達委員、村林委員
事務局：中田教育長、鈴木事務局長、村田事務次長、中西参事兼教育総務課長、大辻参事兼学校支援課長、北畠教育総務課教育政策係長、南教育総務課教育政策係主任、河合教育総務課教育政策係主任

4. 内容

(1) あいさつ

教育長あいさつ

(2) 副委員長の選出

(3) 前回までの検討事項の確認

(4) 検討項目について

- ・ 答申までのスケジュールについて
- ・ アンケート調査結果について
- ・ 松阪市立小中学校の現状について
- ・ 学校の小規模化・大規模化に伴う課題について

(5) その他

内容は以下のとおり

委員長 皆さんおはようございます。コロナ禍ということでまた新しいオミクロン株が出てきてましてなかなか行動が制限される状況の中で、この会議も対面で話す機会が持てなかったのですけれど、今日は久しぶりということで皆さんの貴重なご意見をたくさんいただきたいと思います。今日は本会にお集まりいただきましてありがとうございます。それでは、事項1、教育長からあいさつをお願いします。

教育長 (あいさつ)

委員長 ありがとうございました。

教育長につきましたは、この後、公務があるということでございますので、ここで退席をしていただきます。

それでは、次に、2の副委員長の選出についてであります。前嶋委員が

退職され、副委員長が不在となっておりますので、ここで、副委員長の選出に入らせていただきます。副委員長については、委員の互選により選出させていただくこととなっておりますが、いかがいたしましょうか。

委員 委員長に一任します。

委員長 ありがとうございます。それでは委員長一任という声をいただきましたので、私の方から提案させていただきます。
副委員長には松本委員にお願いしたいと思います。

(拍手多数)

委員長 ありがとうございます。それでは、副委員長は、松本委員にお願いいたします。それでは、副委員長に就任されました、松本副委員長より、ご挨拶をいただきたいと思います。松本副委員長よろしく申し上げます。

(副委員長 あいさつ)

委員長 それでは次、事項3「前回までの検討事項の確認」につきまして、第2回の検討委員会から1年以上経過しており、また、委員の交代もございましたので、これまでの検討事項について、改めて確認をしたいと思います。事務局から説明願います。

(事務局の説明)

委員長 ありがとうございます。前回までの検討事項につきまして、事務局から説明いただきましたけど、ご意見・ご質問等ございませんでしょうか。

(質問・意見 なし)

委員長 それでは次に、事項4の検討項目についてであります。まず初めに「答申までのスケジュールについて」であります。
答申までのスケジュールにつきまして、事務局から説明願います。

(事務局の説明)

委員長 はい、ありがとうございます。事務局の方からスケジュールについての説明がありました。事務局から答申までのスケジュールについての説明がありましたが、ご意見・ご質問等ございませんでしょうか。

(質問・意見 なし)

委員長 それでは、コロナ禍において先行き不透明なところもございますが、この案で答申まで協議を進めていきたいと考えますので、よろしく願いいたします。次に「アンケート調査結果について」であります。アンケート調査結果につきまして、事務局から説明願います。

(事務局の説明)

委員長 事務局からアンケート調査結果についての説明がありました。このアンケート調査につきましては6つの対象者を挙げていただきまして、それぞれ分析もしていただいております。

委員 もっともというか、そうだなというふうに思いました。結局このアンケートにお答えになった方々のお子さまは、本来統合されるときにその子たちは通っていないと思うのですよね。何年後を見据えているのか、わかりませんが、この学校の人数の推移が10年後と書いてありましたが10年後に果たして、世の中がどういうふうになっているかもわからないし、子どもたちの環境というのは、人数もちろん環境も、おそらく大きく変化していると思うのです。だからこのアンケート結果を踏まえて今後どう生かしていくか、そこがとても重要なところじゃないかと思います。これを読んで思い出したのですが、ちょうど今から50年前に私が中学校3年生の1学期に大河内、松尾、花岡、それと与原が統合して中部中になったのです。当時はたぶん、保護者に対して、こんなアンケートも取っていなかったような気がして。私は幼稚園のころから小学校6年生まで1学級でした。1学級がいきなり1年生の3学期になって、当時720人くらいだと思うのでそれこそマンモス校ですよ。今思い出してみると、環境の変化に戸惑ったことを思い出しました。だから子どもたちのそういう精神的なフォローもとても大事になってくるし、簡単にアンケート結果だけを見て決められるものではないのかなと感じました。

委員 この最初の①から⑮まで、棒グラフがあるんですね。その中で「⑩施設に

ついて、子どもたちが安全で安心して利用できる環境になっている」が、保護者よりも教職員の方が低いですね。それと、「⑫特別に支援を要する子どもたちが共に学べるよう、アシスタントの配置など、支援体制が充実している」も低いですね。他の項目は全部教職員の方が高い満足度ですが、施設と運営に関することに関しては現場の先生方の方が他の保護者より満足度が低い。ということは施設・運営面に関しては現場にいる先生の方がよく知っているから不満があるのかなと思います。「学校の教育方法・内容や教育環境等についての重要度と実施状況」が、選択肢「そう思わないまたはどちらかと言えばそう思わない」の方が非常に多い項目が多いですね。これ不満項目がすごく多いというふうに解釈していいのかなと思うので、学校教育の新しいことを考えるにあたってどうやってこの不満を解決していくのかというのが、1つの課題になるのではと思います。

委員長 学校教育内容・方法についてや教育環境についてどうでしょうか。それに関連する質問はありますか。

委員 このアンケート項目で、保護者の立場で回答させていただいた時に、コロナ禍ということもあり、まず学校教育という部分が見える化されず、漠然としているのでどう回答していいかわからないことで、「わからない」という、選択肢に流れたところがあったのではないかと。このアンケートの目的に関して、保護者の方も漠然と何を目標にされているのかがいまいち分からないまま答えているところがある。だからその正確性というところで言うと、例えば、自分の目の前の何々小学校が今後10年後統合になるかならないかという形で答えているのではなくて、一般的な感覚で、統廃合ってどう思いますかっていうことに対して答えていると思う。これが目の前のことだったらちょっと話は変わってくるんじゃないか。逆に自治会の方とかに聞くと、もう少し自分の地域のことと捉えて、地域に学校がいるのかなとかそういう視点で答えたというお声をいただいたこともあった。保護者の見方と地域の方の見方と違って、それぞれの立場で回答してもらっていることが如実に現れたと思います。保護者からすると見えないところ、漠然と答えているというのがすごく耳にも入ってきたし自分自身もそうでした。タブレットで回答してくださいということだったのでそこまで考えずに回答して返したっていう方ももしかしたらいるかもしれない。さっきおっしゃったように、先生方も学校の現場でどうですかっていうような、実際の現場の声っていうのがもしかしたらすごく大事なのかな。見えない私たちの一論で見えてしまっているところがあるかもしれない。

委員

住民として学校を見たときに、学校の中の内容は、ほとんど全くわからないんですが、子どもたちが通学している現状や、学校で遊んでいるときの現状は見えます。コロナの前に子どもがグラウンドで遊んでいる状況と今の状況と全く違うので、私たちの場合はもう外から見たアンケートしかできない。本当は教育現場が一番よく分かっていると思うので、きちっとしたアンケートをもう一回取ってもらうのが一番いいと思う。

もう1つ、住民協議会は自治会連合会と一本化になった。住民自治協議会はPTAとか、学校関係の人、校長先生に入ってもらっているの、今度から住民自治協議会の方からももう少し教育に突っ込んだ意見を話させていただけるとかと思っております。

委員長

小学校、中学校について私が感じるのは、地域との結びつきは以前に比べたら本当に強くなってきているように感じます。私も出身中学校はもうなくなりました。その中で、自分が出た小学校の名前が消えていった、中学校が消えていったっていうのは結構あると思うんですけどその分、いろんな形で地域の結びつきというのは、強くなっていると思うし、アンケートの中にもちょっと反映されている部分もあると感じます。

委員

保護者と教職員との差って部分なんですけども、確かに今コロナの状況で、なかなか保護者すらそんなに会う機会がなかったり、いろいろ地域との結びつきが強くなっている中で、一緒に活動させてもらったり、協力してもらったりと、そういう部分がないことが多い。学校の子どもの様子もちょっとわからないという時期にこのアンケートだったので、保護者の方からわからないって回答が多いのは当たり前かなと思う。実際、教職員はいろんな学校へ異動するのでそこと比較することが可能です。ただ地域の方にするとなかなか他の学校が見えないので、教職員の割合・比率がこうなってくるのは当たり前かな。ただ松阪市は全体的に校舎が古くなってきている。実際働いていて、ここがもうちょっとこうだったらいいのになって思うところもある。もちろん教育委員会の方でいろいろ改善・修繕していただいているんですけども、他の施設と比べてどうかという部分も確かにその中には入っているのかなと思います。「⑪ICT機器を活用しやすい環境が整備されている」に関して、ICTの機器とかはGIGAスクールで現場に、先生方も子どもたちもツールとして、本当によく使ってもらっていて、それに向けて環境整備を整えてもらっているのこの割合が高くなっているのかな。ただそれを発信したり、持ち帰ったりしていく中でもう少しそのあたりも職員としてできる

部分で保護者の理解や認知など、もう少し機会が必要だったかなと思います。

委員 10 ページの「学校の教育方法・内容や教育環境等についての重要度と実施状況」の中で、どういう立場に立って回答するかによって、随分変わってくると思いました。例えば私はこのグラフの下から4番目「特別に支援を要する子どもたちが共に学べる支援体制の充実」とあるんですけども充実して欲しいという気持ちもあるし、充実をさせていかなくちやいけない。一方で直接そういう特別支援に関わらない方からすると、必要性っていうのは見えにくいのかな。だからこのアンケートをもとにして例えば学校全体で、あるいは地域全体でそういう支援を必要とする子どもたちに対しての体制づくりをもっと啓発していかないといけない事が見えてくるのかなと感じました。

委員 「(6) 学校の統合について」という項目について、全体に「課題への対応のため、積極的に統合すべきである」あるいは「学区の見直しなどにより学校間の児童生徒数を調整できない場合は、統合もやむを得ない」と答えたのは87.2%。約9割の方が統合に肯定的だと出ております。対象別で、未就学児の保護者が88.5%で、小中学校の保護者が17.9%。他に比べても非常に割合は高くなっていて、やはり当事者としての危機感や不安感を抱いているのではないかと。松阪市は小規模な学校が多数存在していますので、今後も生徒数が減少していくのを考えると、統合によって児童生徒数を確保していくということが現実的ではないかと考えます。ただ統合によって通学距離が長くなったり、あるいは地域との繋がりが薄くなったり、そういった懸念があるので、保護者や地域の方の意見、理解を得ていくことがこれから重要な課題かなと思います。

委員 これって結局、すべて大人目線じゃないですか。皆さんのお話を聞いている中でそこがすごく気になりました。子どものためを思って考えているけど、大人が考えて言っていることです。今の生徒は、実際に統合になったときに多分その場にはいない子たちですが、もう少し今の子どもたちが、自分たちが同じ状況になった時にどう考えるか、どうなりたいかというのを、大人ばかりでアンケートを取るんじゃなくて例えば少数でもいいのでもうちょっと子ども目線で考える部分もあつたらいいのかなって思った。未就学児とか低学年は無理かもしれませんが、小学校の高学年とか中学校の子なら、それぐらいのことはちゃんと考えられる年齢だと思うので。

委員長 子どもたちに聞くと、例えばここが自分の学校がなくなったらどうなのかというようなことを考えるいい機会でもあると思う。

事務局 子どもたちのアンケートにつきましては、当初は予定をしていたわけですが、委員の方から、なかなか答えにくいのではないかという意見を受けて、事務局の方から書面の提案をさせていただき、アンケートではなく各小中学校の生徒会・児童会で、あまりテーマを決めずに学校規模について話し合ってもらいました。子どもたちの人数が少ない小規模校では、1クラスの人数が少ないので、いろんな機器等も1人1台ずつ使えるとか、すぐに意見がまとまるといった意見がありました。大規模校の方ではいろんな友だちがたくさんできる、対抗戦ができるといった意見がたくさんありました。ただ、児童生徒にとっては自分の通っている学校については当然わかるんですけど、それをもう少し多い学校とか、少ない学校と比べるとというのが、ちょっとわかりにくい部分がある。小規模校は小規模校のこういった良さがあるので良い、大規模校は大規模校でこういった良さがあるので良いというのが、ほとんどの意見でした。中には、もう少し人数がいればいろんなことができるといった意見もありました。

委員長 学校規模によっても考え方が違ってくると思いました。実際我々委員としても、学校を実際見に行くというのも一つの手だと思います。小規模校、大規模校、あるいは特別支援学級を見てその実態を知って、今度また議論の場で活かしていけたらというふうに感じます。
ちょっと教育内容あるいは教育環境について意見をいただいたんですけど、他に何かありますか。

委員 「⑥集団の中で多様な考え方に触れ、切磋琢磨する機会がある」、それから「⑦子どもたち一人ひとりを見守ることができ、きめ細やかな指導が行われている」、この2つの項目について、学校規模別の割合はどのようなものでしょうか。分かれば、ちょっと教えていただければと思います。

事務局 学校規模別の割合はどうか、ということでございます。「⑥集団の中で多様な考え方に触れ、切磋琢磨する機会がある」につきましては、全体では「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた方が72%です。学校規模別では、小学校の保護者につきましては学校規模別におきましても、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた人の割合は、概ね70%近くになっておりますが、小規模校のうち複式学級がある小学校につきましては、5

割程度にとどまっているという状況であります。小中学校の教職員につきましては、概ね 75%程度でございました。12 学級以上ある学校につきましては 90%と高い数値を表しております。

「⑦子どもたち一人ひとりを見守ることができ、きめ細やかな指導が行われている」につきましては、小中学校の保護者、教職員とも「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えた人の割合について、学校の規模が小さくなるほど多くなっています。逆に規模が大きくなるほど少なくなっている状況です。少ないところでは 6 割ぐらいで、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合が大きいところでは 99%。小規模校の方では 9 割以上が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答えておまして、大規模校ほど少なくなっておりまして大規模校の方が 6 割になります。

委員

「(4) 松阪市の学校教育において、重要だと考えるものについて」、先ほどの教育内容と関係してきますが、8 ページの結果を見ると、「子どもたちが意欲的に学ぼうとする授業づくりの推進」とか、「子どもたちの主体性や協調性等の社会に求められる資質や能力育成」、「集団の中で切磋琢磨できる環境」の回答数が多いということで、小中学校においては子どもたちが集団の中で、多様な考え方に触れて認め合い、協力し合う中で切磋琢磨していくことを通じ、思考力や表現力、判断力、問題解決能力を育てていく、また社会性とか協調性とかを身につけていく中では重要になってくる。そういうことを考え、教育を行っていくには、この小中学校の時期に一定規模の児童生徒を確保していくことが重要じゃないかなと考えます。このことについて、例えば大規模校、小規模校のそれぞれに関係する職員や保護者の、捉え方に違いはあるんですか。大規模校だからこういうふうに考えると、小規模校だからこういうふうに考えると、そういう違いってというのはあるんですかというのが質問の 1 つです。

未就学児の保護者の結果についてですが、「子どもたちが安全で安心して利用できる施設環境」の回答数が多くなっています。松阪の小中学校は老朽化というか、結構年数が経過した建物が多いということで、この先、大規模改修とか改築といった対策が急務になっていると思います。この学校規模の適正化等を踏まえた上で、子どもたちが安全で安心して利用できる学校施設には当然していく必要があると考えのですが、今の時点で、この「安全安心して利用できる」というのは具体的にどんな施設、あるいは環境になりますか。その辺は漠然としたものでもいいですが、何かお考えとして持っているのかどうかを教えてください。

事務局

1つ目、大規模校や小規模校によって違いがあるのかということですが、違いはございません。「子どもたちが意欲的に学ぼうとする授業づくりの推進」が、大規模校であっても小規模校であっても、最も多い状態であります。その他、「集団の中できめ細やかな指導ができる環境」、「子どもたちの主体性や協調性等の社会的に求められている資質や能力の育成」というのが、2番目3番目の多少の違いがございますけれども、先ほど言われました、「子どもたちが安全で安心して使用できる施設環境」についても、4番目ぐらいになっているという状況でございます。

施設環境ということで、老朽化の問題に対して今後どうしていくのかということですが、最終的には、今議論していただいております学校規模適正化の基本方針を定めまして、そのあと実際の再編の基本計画を定めるということになります。その後、実際にどういうふうにしていくかというのは、また見直しをかけるということになりますが、現在では今年の3月に松阪市学校施設等長寿命化計画の策定をしております。この計画は、学校施設を可能な限り長期にわたって使用することで、維持管理等に係るトータルコストの縮減を図ることと、予算の平準化を図っていくことを目的としております。躯体のコンクリートや鉄筋の強度が確保されるのであれば、予防保全による施設の改修等を行うことで、躯体の耐用年数の80年を使用年数として学校施設の長寿命化を図っていくものでございます。長寿命化計画の基本方針の中で、不具合があった際に保全を行うという今の事後保全型の管理から、計画的に施設の点検修繕等を行いまして不具合を未然に防止するという計画保全型の管理へと転換を行っていくこととしております。もう一点が、安全で安心して利用できる施設づくりといたしまして、エレベーターの設置や多目的トイレの整備などバリアフリー化やユニバーサルデザインを推進するとともに、災害時の地域の防災機能等の向上を図るとしてしております。その他、新たな時代に対応した施設づくりとしまして、新たな時代に求められる教育環境に対応するために、ICTの対応を図っていくとしております。この長寿命化計画の中で、短期的な計画として直近の5年間をどのようにしていくかということですが、冒頭に申し上げましたこの適正化の議論もありますが、そういったことからバリアフリー化の一層の推進や、防災機能の強化を中心に実施していくとしております。

委員

小規模校でも小規模校の良さがあって、学校の先生方もそこを活かした教育に取り組んでもらっている中で、飯高中学校の教職員の皆さんが文部科学大臣賞を受けています。その取り組みの内容というのが、一つは小規模校の特性ではないんですけどICT教育と連携しながら地域の方々との連携を図

って取り組みをされたことが評価されていて素晴らしいことだなと思いました。ただその内容は保護者の方には、どこがどう素晴らしいというのがわからない方や、知らない方もいらっしゃるかもしれない。でもそれは多分そこにいらっしゃる先生方や、地域の方、子どもたち、いろんな方が一丸となって取り組まれた結果だろうと思うのです。教育水準についても先ほど教育長のあいさつにあったように、松阪市はもう LTE モデルのタブレットを配布したことによって、今までとは違って、学校の中にいながら他校との交流を図ったりしています。10 年後今の子どもたちは全く違う未来を歩いているわけです。子どもたち自身の取り組みを見ても、今まで 10 年前にできなかったようなことをされている学校の取り組みがすごいと評価されていて、それが子どもたちの生きる力に繋がるって素晴らしいことです。そうやって考えていくと、児童生徒数イコール学校規模という解釈が、また一段とフェーズが変わってきたというか、なおさら難しくなってきたと感じます。

緊急事態宣言下で自分の娘も自宅でオンライン授業をずっと受けていました。その時に、やっぱり学校に行って学ぶことがあるということを娘も気づきました。学校の授業としての勉強はできたのかもしれないけど、隣に友だちがいて先生がいて学ぶことってというのは、すごく大事だなと思ったので、集団で学ぶために学校があって、そこでしか経験できないことを自分たちはしなければいけないのかなと娘なりに、オンライン学習の機会学びました。だから、改めて集団ってというのは必要になってくる。ファクターがいっぱいあって、判断するのはすごく難しい。このアンケートだけの結果だけじゃなくて、いろんな子どもたちの声、学校の現場の先生方、いろんな情報を得ないと、私たち自身が判断する材料を見誤ってしまう可能性もあるので、さっきおっしゃられたように学校現場に行かせてもらうなどもある必要があるのかなと思いました。ある程度適正な人数や適正な配置ってというのは必要になってくるけれども、一方で、小規模校のような工夫して取り組みをされている学校もあると思うので他にもそういった取り組みがあるのであればぜひこの機会に教えていただきたいです。

一方で、コミュニティスクールのお話をさせていただきます。松阪市の方も令和 5、6 年度に向けてコミュニティスクールを全校で配置する動きがあるので研修会等で受けているんですが、コミュニティスクールについてどこまで地域の方も知ってみえるか、保護者の方がわかってみえるかと言ったら、なかなかそれが難しい現状もある。ただ、現状、学校運営協議会の学校に配置されているんですけど、それがこの計画と横でちゃんと繋がっているのかどうか。どんどん配置はしていくけれども、もしかしたら 5 年後 10 年後は違った側面でそれ自体を変えないといけないことが出てくる可能性もあり

ます。松阪市全体の横の動きを見たときにいろんな計画が他にもありますが、子どもたちが自分たちで未来を切り拓いていく力をつけるように育てていくという1つのゴールに向けて、横の連携もなお一層図りながら、学校現場の実情も教えてもらい、自分たちも子どもたちの声を聞いて進めさせてもらえたらなと思います。飯高中学校がどういうふうにされているのか、もし教えていただけたらすごくありがたいです。

事務局

飯高中学校は、特に地域の方と密接に関わってもらっています。地域にある課題を生徒が見つけてきて、例えば地域にある空き地の利用をどうしていくかについて、1年間かけて生徒がグループになってそれを追求していました。松阪市では空き地対策にどんなことをしているのか、県内の他の市町ではどうしているのだろうかということは、今はタブレットがありますので調べたりまとめたりできます。飯高のこの地域の空き地を皆さんがどんなふうにご利用されているのかということは、その地域の方を招いて、それも1回だけではなく、自分たちが集まるときに2回3回と続けて招いて、地域の方の意見を聞きながら、地域の課題を地域の方と一緒に考えていくという取り組みをずっと進めています。

また、静岡県の中川根中学校は山間の学校で、飯高中学校と同じような課題を持ち、同じようなICTを使った教育を進めてみえるので、インターネットで生徒同士が交流をするようになりました。例えば、昼休みはずっと中川根中学校と飯高中学校の生徒会をネットで繋いだままにして「今日、こっちは天気がいいよ」とか「何の勉強をしたの」と自由に交流できるようにしました。「松阪市羽ばたけ子どもたち！チャレンジ応援事業」で教育委員会事務局から予算を差し上げまして、12月の終わりには飯高中学校の生徒たちが中川根中学校へ行きました。今まではインターネットでしか交流できなかったのですが、実際に会ってすごく楽しかったと報告を受けております。

その地域の状況によって、規模によって、各学校が工夫した取り組みを考えておりますので、CSの今後も含めて横の繋がりがすごく大事になってきます。いいご示唆をいただきましたので、これから生かしていきたいと思えます。

委員

「(5) 子どもたちのより良い教育環境について検討する上で、特に重視すべきだと考えるものについて」というところの結果の中で「通学区域と通学手段の安全性の確保」に多く回答してもらったということで、通学路での痛ましい事故が全国的に後を絶たないということもあって、安全対策は当然十分配慮していく必要があると思います。仮にこの先、学校統合になってくる

と通学距離が必然的に長くなっていく。法律の中で小学校の通学は概ね4 km以内、中学校は概ね6 km以内というのが1つの基準。もちろんその地域の実情によって変わるところもありますが、これがさらに長くなると例えばスクールバスの配備などの検討も必要になってくると思います。その辺はどう考えているのか。

もう1つ、「児童生徒数や学級数」について回答が多くなっているんですが、学級数については法律で小中学校とも12学級以上18学級以下が標準、地域の実態やその他により特別の事情があるときはこの限りではない、と弾力的なものになっているんですが、学校を再編していく中で松阪市として最低限どのぐらいの規模を確保したいと考えているのか聞かせてください。

事務局

1点目のスクールバスについて、現在も遠距離通学をしている小中学生に対してスクールバスの運行をしています。統廃合によってより遠距離となる場合につきましては、当然一定の基準をまた定める必要がありますが、スクールバスの運行を検討していく必要があると考えております。また、その他路線バスが走っている場所につきましては定期券の購入経費について、当然支援を行っていく必要があると考えております。標準学級について、小中学校では12学級から18学級が標準ということでございます。最低限どれぐらいの人数が必要なのかにつきましては検討委員会の方で、松阪市にとってどういった学校規模が適切なのか、どれぐらいにしていくべきなのか、今後議論していただきたいと考えております。

委員

「⑥集団の中で多様な考え方に触れ、切磋琢磨する機会がある」「⑦子どもたち一人ひとりを見守ることができ、きめ細やかな指導が行われている」に戻ります。先ほどの飯高中学校も、小規模校ならではのいい取り組みで地域と一体でなされている。一方で項目⑥については、複式学級を抱える学校では「そう思う」という回答が約5割と聞きました。「(4)松阪市の学校教育において、重要だと考えるものについて」、「集団の中で切磋琢磨できる環境」という回答が4番目に上がっているという結果から、複式学級の解消については早急に検討すべきじゃないかと考えます。学校区に小規模校がたくさんあり、生徒数が一桁ぐらいの学校ではきめ細やかな学校教育はできるが切磋琢磨するということが弱い。オンラインも含めて他校との交流が2~4校ほどあり、自分のところの学校だけでは限界があるので学校区の中でいろんな行事を合同で進めています。小規模校には良い面もありますが、やはり複式学級の改善については検討をしていく必要があると考えます。

委員長 学校統合について、他にご意見いかがでしょうか。

委員 時系列で見て、我々の結論を出そうとしているのが5年10年先なんですね。そう考えたときに、今の学校教育だけに焦点を当てていいのだろうか。逆に言うと、その5年後10年後に対する松阪市全体のビジョンがあるのだったら、我々のインプット情報として入れていただいて、それと違うんだったらいけないわけですから、要は、早い時期に我々のインプット情報として入れていただいて、ベクトルを少なくとも合わせていきましょう。教育だけ考えても駄目だというような気がいたしました。

委員 宇気郷や中郷の小学校や中学校なんかもない。2人とか3人しかいなかった子どもたちが統合されて、今は豊地小学校も人数が120、130人だと思うんですけど、その時はもう少し多かった。その中へ入っていく子どもたちはどういうふうにも他の子たちに溶け込んでいけばいいか。多分孤立していたんじゃないかなって気はしています。その当時は、今みたいにこういう議論の場がなくて、完全に統合しますよって感じでされた。そういうことがないようにやってもらっているから、ありがたいと思ったんです。それと、嬉野地域は、中川小学校とあと3校、3つの小学校を合わせても半分いかないんです。小規模校の校長先生と、マンモス校との教育格差の有無についてお話を聞く中で、教育環境や勉強面では全く差がないどころか逆に、小規模校の子どもの方が落ち着いてしている。今の状態であればそんなに統合する必要はないかなと、私はそう感じています。飯南・飯高が嬉野と一緒にならないということですので、その辺りはまた考えてもらって、小学校で100人未満という場合とはまた違ってくると思います。また、住民協議会と自治会連合会は統合しましたので、文化教育部会とかは全部住民自治協議会にもあり、その中に県の先生とか皆入っておりますのでもう少し地域と学校の関わりがうまくいくんじゃないかと思っています。

委員 両者とも整合性が大切だというふうにおっしゃいましたけど、一番理解しなきゃいけないのは、なぜ統合が必要なのかだと思います。資料4を見る限り、必要だから今ここで議論をしているわけなので、松阪市のこれからの行政に対するビジョンの中で、この統合がどれだけ重要なことか、なぜ必要なのかということをもっとはっきりさせて議論していかなければいけないんじゃないかなと思います。

委員 現場の方でも、保護者もそうだと思うんですけども、自分が小規模校だ

ったら小規模校の視点で考えますけれどこのアンケートの数字だけポンと出てきても、統合の話のときに小さいところの意見が隠れてしまう。例えば「その他」の中で肯定的な意見が一応ありますけれど、否定的な意見が6割。その6割の言葉とかが数行はあるのですが、もう少しその辺の言葉とかも一つ一つ丁寧に吸い上げて聞きながら、できる限り解消していく方向で、その方法についても一緒に議論が必要だと思う。確かにタブレットなどを使うことは、すごく可能性はあると思うんですけど、それだけではいけないところも結構あると思うので、そういう意見もしっかりと考えながら進んでいかなければならないと改めて思いました。

委員 この検討委員会が立ち上がった目的、どこに向かっているのかをもう少し見える化して共有し、自分たちもしっかりそこを踏まえながら、いろいろな方の意見を聞き、子どもたちの笑顔の花が咲くようにというところを主体として、考えていただけたら本当にありがたいなと思います。私も微力なんですけれども、次回からも一緒に検討させてもらったらと思っています。

委員長 それでは次に「松阪市立小中学校の現状について」、事務局から説明よろしくをお願いします。

(事務局の説明)

委員長 次に「学校の小規模化・大規模化に伴う課題について」であります。小規模化・大規模化に伴う課題につきまして事務局から説明よろしくをお願いします。

(事務局の説明)

委員長 事務局から小規模化・大規模化に伴う課題についての説明がありましたが、ご意見・ご質問等ございませんか。無いようですので、検討項目につきましてはこれで終了させていただきます。十分な時間がとれませんでしたので、また次回に意見を述べていただきたいと思います。その他につきまして、委員の皆さまから何かございますか。

委員 今、生徒さん自身がリモート学習をしているという現状の中で、こういった会議をみんなリアルでやる必要があるのか、webを積極的に使うのか、場合によっては現地でやるというお考えはあるんですか。

事務局 最後にご提案をさせていただこうと思っていたのですが、オミクロン株の感染が拡大しておりまして、三重県でも 180 人近くにもなっています。Zoom による会議を提案させていただこうと考えておりました。インターネット環境があるかどうか、Zoom で参加できるかななどを後日になりますが、アンケートをとらせていただいて、Zoom での参加が可能な委員さんにつきましてはそういった形をお願いして、難しい方につきましては申し訳ありませんがこちらへ来ていただくというような形で、次回からは考えたいと思います。

委員 すごくきつい言い方をしますけど、正直言って対応が遅いですよね。オミクロンがこんなになっている時に、はっきり申し上げて対応が遅いです。今日だってもう少しやってくれていると思いました。これはちょっとひどいと思います。

事務局 申し訳ありません。次回からしっかり対策してまいります。

委員長 それともう一つありました視察についてですけど、こういう状況なので難しいかもわかりませんが、もし可能であれば、小規模校、大規模校、あるいは特別支援学級等の視察等を入れていただきたいなというふうに思います。他、委員さんよろしいでしょうか。

事務局 次回の検討委員会の日程でございます。事前に日程調整させていただいております。次回につきましては 2 月 8 日の午後を開催をさせていただきたいと考えております。

委員 何時を予定したらいいですか。

事務局 若干変更になる可能性があります。13 時半予定ということでよろしくお願いたします。当日都合が悪い委員さんもいらっしゃいますが、出席していただける委員さんが最も多い日にさせていただいておりますので、何卒ご了承をよろしくお願いたします。また、第 4 回以降の開催日程につきましても事前に日程調整をさせていただきまして、最も多く委員の皆さんが出席をしていただける日にさせていただきたいと考えておりますのでご理解賜りますようよろしくお願申し上げます。それから、先ほどお話がありましたオンラインについて、明日以降になりますけれども、一度アンケートを取らせていただきまして、可能な方につきましては Zoom で参加していただ

きたいと思います。よろしく願いいたします。また、詳細につきましてはご連絡させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。事務局からは以上になります。

委員長 次回は2月8日13時30分からということで、よろしく願いしたいと思います。本日の協議事項は以上になります。です。それではこれもちまして、本委員会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。